菊川浄化センターのしくみ

酸素発生装置

水質試験室

監視室

①沈砂池

浄化センターに流れてきた汚水は沈砂池に入り、汚水に含まれている大きなゴミや土砂がこの池で取り除かれます。

②ポンプ井

沈砂池でゴミや土砂が取り除かれた汚水はポンプでくみ上げられ、反応タンクへ送られます。

③酸素発生装置

空気を取り出し、反応タンクへ送るための設備です。

④反応タンク

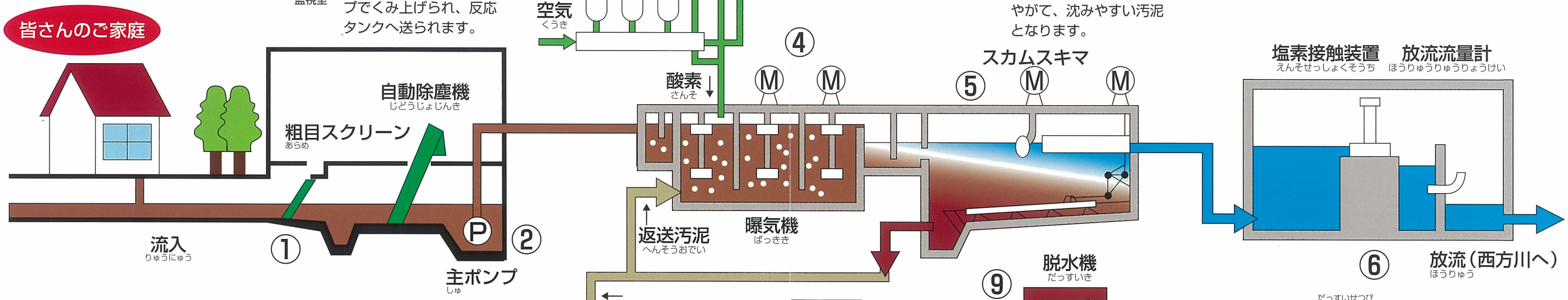
汚水をかき混ぜ酸素を汚水に解けこませます。活性汚泥の中の微生物の呼吸を助け、汚水浄化作用を高めます。微生物はやがて、沈みやすい汚泥となります。

⑤最終沈澱池

沈澱しやすくなった汚泥と水をここで分解します。この汚泥は一部を反応タンクに余剰汚泥は汚泥濃縮機に送ります。

⑥塩素接触タンク

最終沈澱池から送られてきた上澄みに次亜塩素酸ソーダを加え、大腸菌やその他の細菌を死滅させます。



⑦汚泥濃縮槽

最終沈澱池から送られてきた余剰汚泥は、多量の水分を含んでいるため、重力濃縮により、汚泥中の水分量を少なくします。

⑧汚泥貯留槽

汚泥濃縮槽より送られてきた濃縮汚泥を一時貯留しておきます。

⑨脱水設備

濃縮された汚泥に凝集剤を加えて脱水機にかけ、脱水ケーキ（かたまり）として場外に搬出します。

最終沈澱池

塩素接触タンク